

日本学術会議地球惑星科学委員会IUGG分科会IASPEI小委員会（第24期・第4回）

日時： 令和元年9月18日（水）12：00～13：00
会場： 京都大学国際科学イノベーション棟 5階 会議室5a
(〒606-8501 京都市左京区吉田本町)

【出席】（敬称略）佐竹（委員長）、久家、横井、中原、平田、川瀬、長尾、井出、吉岡、田中：計10名

【欠席】（敬称略）山岡、末広、モリ、熊谷：計4名

議題

1. IUGG 報告【資料IUGG-report】

IASPEI委員が出席したビジネスミーティングや学術シンポジウムに関する報告が地震学会ニュースレター9月号に掲載された。

佐竹委員長からIUGGの概要の報告がなされた。参加国約100か国、参加者約4000人、開会式でIUGGメダルがブライアン・ケネット氏に授与され、瀨瀨氏が推薦文を読み上げた。カナダのジョン・アダムス氏が基調講演を行った。Early Career Awardは10人の受賞者のうち、地震学会が発議して日本学術会議地球惑星科学委員会IUGG分科会から推薦された辻会員が受賞した。前回IUGG以降の4年間の決算報告がなされた。次回のIUGGは2023年にベルリンで開催される。

さらにIASPEI関連の報告がなされた。佐竹委員長がIASPEIの会長に選出された。次回IASPEIはIAGAと合同でインドのハイデラバードで開催される。

各委員より口頭でビジネスミーティングの報告がされた。

2. ASC（アジア地震学委員会）について【資料：Egypt_ASC_2020 bid_final、Nepal_Bidding-file-for-ASC2020、ASC_2020_Russia_proposal_fin】

横井委員より、次回開催場所について報告がなされた。候補地はイルクーツク（ロシア）、カトマンズ（ネパール）、シャルム・エル・シェイク（エジプト）。投票の結果、エジプトが1位になった。開催都市のあるシナイ半島はアジアだが、エジプトはアフリカなのでAfSCの共催も考えられるが、次回AfSCの開催地は決まっている。ASC幹部に問い合わせ、引き続き情報を収集する。

3. 2021年IASPEI

開催日は2021年8月22-27日。セッション提案などの日程は決まっていない。地震学会員向けのアナウンスなどが今後必要となることを確認した。セッション提案に向けて地球電磁気学会やEMSEV、ヒートフロー(IHFC)分野との協調が必要となると見込まれる。

4. 第6回ESGシンポジウム、ESG6開催予定の報告

川瀬委員より報告。IASPEI/IAEE Joint Working Group on Effects of Surface Geologyの活動として、1992年から4~6年に一回開催してきたもの。2021年3月15-17日、京都で開催される。ホストは日本地震工学会、地震学会などが後援、松島信一京大教授がLOCチェアをつとめる。予稿の締切は2021年1月末。

5. 世界地震工学会

2020年9月に開催される。

6. 次期IASPEI小委員会の体制

次期体制について議論した。委員長は学術会議の連携会員。2020年9月に学術会議会員の更新時期に合わせて委員長と幹事を更新する。現在の委員長と幹事の交代を希望しており、今年度代議員選挙が行われる地震学会の新しい国際担当理事と相談して決定する。

7. その他

2019年7月にパリでIUGG100年記念会が開催され、東大地震研の小原氏に出席していただいたとの報告がなされた。

日本はIUGG分担金を負担している。IASPEI小委員会の活動だけでなくIUGGや各アソシエーションにおける日本のプレゼンスを示し続ける必要があることが確認された。

長尾委員より以下の報告がなされた。1) EGU直後の2020年5月にブルガリアで地震予測シンポジウムが開催される。バルカン半島諸国（含むトルコ、ギリシャ等）の地震予知に関心がある研究者が集まる。2) CSES (China Seismo-Electromagnetic Satellite)。EMSEV-IUGGとのアグリメントに基づきオープンデータ、長尾委員が扱う。3) AGU book、地震先行・前兆現象に関する冊子が発行された

(<https://agupubs.onlinelibrary.wiley.com/doi/book/10.1002/9781119156949>)。